

相模女大家政 永井房子 。田中百子
実践女大家政 平山順之

目的 縫製作業を能率よく正確に行うには種々の要素が考えられるが布地の裁断も重要なポイントの一つである。特に布地の裁断にあたっては単に一枚の布地を裁断する以外に何枚も布地を重ねて一度に裁断する場合がある。その際最上層と最下層の布地とでは布地がずれて裁断され問題となることをしばしば経験する。そこで前回我々は裁断時の布地とはさみの関係を裁断効果の面から解析するためはさみ開き角度、布地の刃先のあたり角度などを再現性よく調整出来るようにはさみを固定した裁断機を試作し予備実験を行った。今回は裁断時の布地ずれと物性との関係について検討した。

方法 試料布は組織、糸密度、厚さ、起毛などの異なる布地11種類を用い、布地の方向、重ね枚数（2、3、4枚重ね）などの違いによるずれ寸法を測定した。物性値としてはせん断抵抗、摩擦係数を求めてずれ寸法との関係を調べた。はさみは一般的に用いられている裁断ばさみを使用した。

結果 布地の方向とずれ寸法の関係ではたて、よこ方向に比してバイヤス方向のずれ寸法が大きく、せん断抵抗が小さくなるにつれてずれ寸法は大きくなる傾向であった。摩擦係数とずれ寸法の関係では摩擦係数の小さいものほどずれ寸法が大きく、両者には相関関係が認められた。布地の重ね枚数とずれ寸法の関係では重ね枚数が増えるにしたがってずれ寸法は大きくなる傾向であった。また中間層の布地のずれが大きいことが特徴的であった。